新　岐　阜　　09 5/16　　郵便物認可

徳山ダムの導水路
名古屋市撤退方針

古田知事、議論見極めへ

国「市と愛知県 協議を」

名古屋市の河村たかし市長が十五日、徳山ダムの水を木曽川に流す導水路事業からの撤退を検討する方針を示した問題で、古田肇知事は同市の検討状況を見極めた上で県の対応を考えるとの慎重な姿勢を見せた。また、金子一義国土交通相はともに水利権を持つ同市と愛知県の協議が必要との認識を示した。一方、導水路事業に反対する市民団体からは「勇気ある決断」と歓迎する声も聞かれた。

金子国交相は閣議後の会見で「一番の水利用者は愛知県と名古屋市だから、調整をやっていただく必要がある」と述べた。

古田知事は、河村市長から十五日に電話があり、三県一市での協議の場をとの提案があったことを明らかにしたが、「関連する自治体を束ねていくのは国であり、三県一市だけの話ではない。手順を踏まえてどうするか。名古屋市がどうするのか、スタンスがはっきりしないといけない」と語気を強め、名古屋市の議論を見守る考えを強調した。

この日、導水路が環境に与える影響を検討する有識者の「環境検討会」が岐阜市内で開かれ、水資源機構中部支社の富岡誠司副支社長は冒頭のあいさつで「わたし自身も驚いた。いろんな事業を検証する必要の中で導水路についても考えたいというのが真意のようだ。計画に沿って粛々と検討してほしい」と説明。終了後の会見では「名古屋市の負担額は必ずしも大きなウエートを占めているものではない。国の交付金、愛知県の負担金を予定通りもらえれば、その分の仕事はできる」と当面の見通しを示した。

環境検討会には、導水路に反対する「長良川市民学習会」のメンバーも傍聴に訪れ、開始前に河村市長の方針を歓迎する趣旨の談話を国交省担当者に手渡した。「無駄なダムに無駄な導水路を重ねるだけ。巨額の公金を無意味な事業に投入することは許されない」とし、「国は名古屋市長の判断を重く受け止め、導水路建設事業の中止に向けた検討に踏み出すべき」と訴えている。

長良川へ放流
「渇水時のみ」
環境検討会が検討
第七回木曽川水系連

絡導水路環境検討会は十五日、岐阜市内で開かれ、徳山ダム（揖斐郡揖斐川町）の水を通常時は長良川に放流せず、そのまま木曽川に流すとする木曽川水系連絡導水路事業監理検討会の新案を、環境面から追加検討することを決めた。

当初案は通常時に毎秒〇・七㌧、渇水時に毎秒四・七㌧を長良川に流すとしていたが、長良川の環境変化に対する県や市民グループからの懸念を受けて、新案では通常時の放流をやめるとしている。

環境検討会には、藤田裕一郎岐阜大学教授を座長に学識経験者ら計十人が出席。新案の検討については、当初案のシミュレーションモデルを適用することを承認したほか、連絡導水路事業が大気や動植物に与える影響などを協議した。結果は、第九回環境検討会後に環境レポートにまとめ、公表する。

長良川の水質
めぐり質問状
国交省に市民団体

木曽川水系連絡導水路に反対する市民団体「長良川市民学習会」（代表・柏谷志郎岐阜大教授）は十五日、異常渇水時に長良川に放流する」ことによる水質や魚類への影響や、渇水時に木曽川のヤマトシジミの保護に有効としていることをめぐり、国土交通省中部地方整備局に公開質問状を提出した。

同学習会は「鵜飼が行われる区間では43%が徳山ダムの水となり、水質に大きな影響を与える」として、異常渇水時の放流水の想定される水質を示すことなどを求めている。木曽川のヤマトシジミをめぐっては、同省が示している各種データや調査に不備があると指摘し、検討や説明を求めた。